

- 1 単元名 本はともだち
「ずうっと、ずっと、大好きだよ」
- 2 単元の目標
 - ・好きな本を楽しんで読んだり、作品に対する思いが伝わるように紹介したりしようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
 - ・好きな場面を見つけて、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読むことができる。
(読む能力)
 - ・好きな物語を読み、紹介したい本や文章を選ぶことができる。
(読む能力)

3 単元について

読書は児童の生きる力と知恵を育ててくれる。低学年の時期こそ、自分で本を選ぶ楽しさ、本を読んでお話の世界に遊ぶ楽しさをできるだけ経験させることが必要であり、自分から進んで本を読もうとする主体的な読書意欲を育てていくことが大切であると考えられる。これまでに児童は、「大きなかぶ」「ゆうだち」「くじらぐも」などの教材により、物語の筋の展開をとらえたり、動作化や音読を通して登場人物の行動や場面の様子を想像したりする学習に取り組んできた。

本単元では、「お気に入りの本を紹介しよう」という単元を貫いた言語活動を設定する。自分の好きな本やお気に入りの場面、その理由などを交流することにより、互いの感じ方を認め合い、本の内容に対する思いを膨らませることができるようしていきたい。そのためには、お気に入りの本や文章を選んで読んだり、好きな場面を見つれたり、その理由を考えるために人物の行動に着目して何度も読み返したりする力が必要である。そこで、教材文「ずうっと、ずっと、大好きだよ」の学習においては、自分のお気に入りのところを探しながらお話の最初から最後までを繰り返し通読して、言語活動を行うための読みの力を育てるようにしていきたい。また、教材文の学習に並行して、教室には学校で選定したお薦めの本、図書館で貸し出ししている本などを置き、本を手にとりやすい環境を整え、紹介したい本を児童が選べるように配慮したい。

4 児童について (略)

5 指導について

本年度の研究主題は、「未来につながる力をもつ子どもの育成」である。本単元では、「お気に入りの本を紹介しよう」という単元を貫いた言語活動を設定して、主題に迫るための視点の一つである学習内容に主体的に関わろうとする態度を育てたいと考えた。

まず本を紹介する方法として『本の小箱』を作成したい。『本の小箱』とは、本の題名、登場人物、あらすじ、心に残った場面などが書かれているカードを入れた小さな箱である。『本の小箱』を作るという作業を通して、本を何度も読み返しながら場面の様子を人物の行動に着目して想像し、本の内容に対する自分の思いや考えを膨らませていくようにしたい。

単元の導入に当たる本時では、教師が作成した『本の小箱』を使った絵本の紹介をし、自分たちも本の小箱を作って、お気に入りの本を紹介するという学習の目当てをつかませるようにする。また、モデルで示した『本の小箱』の中に入っているカードをもとに、「登場人物は」「どんなお話か」「一番好きな場面は」「その場面が好きな理由は」といった紹介する視点をグループで見つけさせ、読みの見通しをもたせるようにしたい。グループごとに一つずつ『本の小箱』の実物を用意することで、何が書かれていたか聞いただけでは分からない児童にも見

つけさせるための手だてとする。登場人物カードや、好きな場面のカードを一つ一つ作りながら小箱の中に入れていく活動は、児童にとって宝箱に大切な物を詰めていく感じにも似ている。お気に入りの本の小箱を作ることで、紹介する本が自分にとっても特別な本となることを期待したい。

6 指導計画（10時間配当）

- 第1次 お気に入りの本を紹介するために必要なことをさぐろう。（1時間 本時）
- 第2次 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読み、本を紹介する方法を知ろう。（5時間）
- 第3次 『本の小箱』を作って、お気に入りの本を紹介しよう。（4時間）

7 本時の目標

- ・お気に入りの本を紹介するための視点を見つけることができる。

8 準備物

本の小箱（見本とグループ用8こ）、パソコン、OHC、読書の記録

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支 援（・）と 評 価（☆）
<p>○これまでに読んだ本を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイローンだ。「タイローンはこわくない」の本を読んだよ。 <p>○「心に残っている本」や「大好きな本」を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな本は、「バムとケロのそらのたび」だよ。飛行機に乗って、りんご山の中に入って行くのがおもしろかったよ。 <p>○担任のお気に入りの本の紹介を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あっ、このお話知っているよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">『本の小箱』の、ひみつをさぐろう。</div> <p>○『本の小箱』のひみつを探り、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵が描いてあるよ。お話に出てくる動物が入っているよ。 ・箱の、周りに、題名が書いてある。 ・どんなお話か書いているよ。 ・好きなところも書いている。 <p>○『本の小箱』のひみつを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物 ・どんなお話か ・一番すきなところ ・なぜ、その場面がお気に入りか <p>○次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに読み聞かせをした本や帰りの会で児童が紹介していた本の表紙や登場人物をテレビに映し、読んだ本を思い出させる。 ・読書の記録を見直すことにより、心に残っている本をあげられるようにする。 ・題名だけでなく、どんなところが心に残っているかも伝えるように促し、もっといろいろなお話の本を読みたいという気持ちにさせる。 ・好きな本の登場人物やあらすじ、お気に入りの場面などを紹介する『本の小箱』のモデルを提示する。 ・自分の考えをもちやすいように、グループでの活動を取り入れる。 ・グループごとに分かれて、実物を見ながら『本の小箱』を作るための視点を見つけさせる。 ☆本を紹介するための視点を見つけたことができたか。（発言・読む） ・4つの視点以外に、お話を説明するのに大切だと思う物があったら、箱の中に入れてもよいことを知らせる。 ・次時の目当てを児童と一緒に設定する。

10 授業の観点

- ・『本の小箱』を提示したことは、お気に入りの本を見つけて『本の小箱』を作りたいという学習意欲を高め、本を紹介するための視点を見つけることに効果的であったか。